

# 家庭菜園で

碁楽連会長 真辺 保幸

晴耕雨読には程遠いですが、狭い畑で家庭菜園を営んでいます。道具は、鍬や鎌などで機械類は使用していません。また、農薬も使用しません。狭い畑ですが、毎日のように通っていると、思わぬ自然の営みや動物の暮らしなどに会います。その中の一つを紹介させていただきます。

いつもの通り畑を耕していたら、地面の中から1匹の野鼠が出てきて逃げて行きました。野鼠は体長が10センチぐらいで、澄んだ茶色をしていました。ペットにしても良さそうな、きれいな可愛い鼠だなと思いました。なお耕し続けていたら、今度は野鼠の巣が出てきました。その巣を開いたら、中にはまだ産毛も見えない野鼠の子が6匹いました。その巣を藪に捨て、なお耕し続けていたら、さっき逃げた野鼠が出てきて、私が耕した土のところで潜ったり出たりし始めました。私に藪に捨てた巣を探しているのでしょうか。私にはかまわず、すぐ側まで来て必死に探しているのです。私は、野鼠が巣を探しに来るとは思ってもいませんでしたし、畑を荒らされては困るので巣は捨てたのですが、追い払ってもなかなか逃げようとせず探し続ける野鼠の姿に驚きました。



私は子どもの頃、他人を苛めたり、悪いことをすると、両親に犬、畜生にも劣る行いと厳しく叱られたものです。今日、親がわが子を虐待したり、子どもが親を殺害したりするニュースが報じられ、その度に、どうしてこのように信じられない出来事が起こる社会になったのだろうと心を痛めております。

一度は逃げた野鼠が、怖さも忘れてわが子を探し続ける姿に感心させられた畑仕事の日でした。

(碁楽連だより 第191号 6月号 2007年6月23日)